適当な湿気

風土として培ってきたのです。 日本は高温多湿の国といわれてきました。 わたしたちは湿気を友としてきた歴史を持っています 高温多湿の気候にうまく適応し 肌や髪の手入れまで、 食、家の造りは言うに及ばず

私たちが身体で感じてきた湿気感です それを支えてきたのが まちのすべてがつながっていた時代

湿気は数値で測るものではなく

肌で感じるものだったのです

N密性を高め、

温度や湿度を個別に調整した室内に こころがエアコンによるドライな快適さを知った

改めて湿気と折り合うことはできないのでしょうか、エネルギーの持続的利用が緊急課題とされる今、 みられない室外に分かたれ トアイランドが問題となって

21 号

特集「適当な湿気」

温気と仲良くするライフスタイル高温多湿でこそ発揮される日本の衣食住文化

神崎宣武

微細水滴がつくるチョット涼しい屋外環境 辻本 誠

屋内気候とまち内気候の調和良好な外部空間をコモンズとしてつくりだす 野沢正光

12

衣服気候の風合い

田村照子

肌環境を司る化粧文化 村田孝子

水道歴史遺産を水の科学ミュ水の文化楽習実践取材 神戸市 水の科学博物館 24 18

ージアムに

28

湿度の高い砂漠大気から水を絞り出す省エネ温室の経験が造水技術に変化するまで 神近牧男

みずだより 湯気は見た目のご馳走です

笹岡隆次 42

文化をつくる 肌で感じる湿気 44

湿気と乾燥 古賀邦雄

里川研究掲示板

インフォメーション